

2020年度 学修成果に係る自己評価アンケートの分析（卒業時アンケート）

共愛学園前橋国際大学短期大学部
(旧 明和学園短期大学)

本アンケートは、在学2年間の学生自身の「専門科目」「専門以外の科目」にかかる学修の振り返りである。それぞれの項目ごとに、4つの選択肢の中から自分に一番近いと思われるものを回答する形式で行った。

本学での学修成果について、あなた自身の取り組みを「専門科目」「専門以外の科目」それぞれについて、次の設問ごとに、「4：大いに身に付いた 3：まあまあ身に付いた 2：あまり身に付かなかった 1：全く身に付かなかった」から該当するものに○をつけてください。

実施年月：2021年1月

調査対象：2020年度2年次 卒業見込み学生 53名
(こども学専攻 18名・栄養専攻 35名)

アンケート回収率：92.5%

1 「専門科目」について

「将来、役立つ知識・技能が身に付いた」（こども学 3.9、栄養 3.1）から、専門科目において将来に役立つ知識・技能が得られたことを実感している学生がこども学専攻で特に多いことがわかる。こども学専攻では、知識・技能の習得だけでなく、身に付いた力として「学んだ知識や技能を生かし、小さな成果を粘り強く取り組み完遂する力」（こども学 3.6、栄養 3.1）、「社会全体の利益を実現するルールや人との約束を理解し、守ることができる力」（こども学 3.6、栄養 3.1）に対する数値も高く、今後に向けた強い意欲がうかがえる。栄養学専攻において、各設問に対する回答に「まあまあ身に付いた」が多く、平均的な数値になったのは残念である。

本学の「学修成果に係る自己評価アンケート」は、昨年度まで「専門科目(講義)」「専門以外の科目」「専門科目(実習・演習)」の3項目で、「興味・関心を持って取り組めた」「配布された資料が役に立った」等、学生の取組姿勢や授業の内容・方法に関する設問に回答するものであった。今年度よりディプロマ・ポリシーに掲げた「学生に身に付けさせたい10の力」に基づいて、学生自身がどんな能力を身に付けたと感じているかを問うものに変更された。

本学のシラバスには、事前・事後の学修でやっておいてほしいことや、そのために必要な時間などが明記されている。学生には、基本的に2単位15回の授業（講義）については、当該授業だけでなく、予習、復習をセットで行うことで到達目標を達成できることを示している。そのため教員は、授業を通して予習・復習の必要性を意識させるよう工夫している。本学では、知識の伝達のための教員からの一方的な授業を脱却し、双方向型のアクティブ・ラーニング手法を用いて、知識を活用しながら思考力・判断力・表現力などを育むための授業に転換すべく全学的に取り組んでいる。

今年度は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受け、5月以降前期は遠隔授業となった。本学は、フォームやチャットなどを使いながら「資料配布型」による授業を全学的に行うとともに、実験を要する科目はクラスを分割して感染防止策をとりながら実施した。学生は登下校に要する時間の節約、自分のペースでの学修などを進められた反面、通信環境や端末の脆弱さや課題が重なったことなどがあり心理的な負担を感じたようである。後期は、対面授業に戻し年度末まで本来の授業形式を行うことができた。

こども学専攻、栄養専攻とも「ほとんどの科目で事前学修を行った」（こども学 2.5、栄養 2.2）、「ほとんどの科目で事後学修を行った」（こども学 2.6、栄養 2.4）の両項目が低かった。遠隔授業における課題やレポートの負担が多かったにしろ主体的に授業に取り組む姿勢が見られなかったことが課題である。

遠隔授業にしる、対面授業にしる、それぞれの授業が、知識を習得させ、その活用により、本質的に思考力・判断力・表現力などを育むところまで深まっているか、学生自身がどんな力を身に付けたと実感しているかをアンケート等で検証し授業改善につなげていくことが本学全体の課題である。

2 「専門以外の科目」について

「専門以外の科目」でも「将来、役立つ知識・技能が身に付いた」（こども学 3.6、栄養 3.2）から、将来に役立つ知識・技能が得られたことを実感している学生がこども学専攻で多いことがわかる。こども学専攻では、知識・技能の習得だけでなく、「失敗を恐れずに、果敢さを持って前に踏み出す力」（こども学 3.7、栄養 2.9）、「自己の意思・判断によって、自ら責任をもって物事に進んで取り組む力」（こども学 3.7、栄養 3.1）に対する数値が高く、主体的に前進する力が身に付いたと実感している。栄養専攻においては、ほとんどの設問に対する回答の平均が 3.0 前後で、知識・技能のほか「社会全体の利益を実現するルールや人との約束を理解し、守ることができる力」が 3.2 を示している。今年度栄養専攻の学生数がこども学専攻の 2 倍ほどであるため数値が低めに出た感はあるが、2 年間で身に付けた自身の力について自信を持って進路先で活躍してほしい。

学生に身に付けてほしい力のうち「本当にその前提が正しいかを検証し、あるいは内省したうえで本質を見極める力」（こども学 3.1、栄養 2.9）、「相手の言動を正確に把握し、自分の考えをまとめ、わかりやすく相手に伝える力」（こども学 3.1、栄養 2.9）の項目が両専攻とも低く、批判的思考力と傾聴・発信力に課題が残った。

3 まとめ

本学は、保育士・栄養士の資格取得を目指す学生がほとんどで、知識を伝達する講義形式の授業形態のほか、双方向型のアクティブ・ラーニング等を導入し、知識を活用しながら思考力・判断力・表現力などを育むための授業への転換を図っている。また、現在コロナ禍であるが、実験・実習等に細心の注意を払いながら、それを重視し、施設や学校での体験学習を多く設定し実学的で実践的な知識の習得を進めているところである。

今年度は、新型コロナウイルスの感染症拡大を受けて、遠隔授業における ICT の活用も行われた。今後はさらに、ICT 活用を推進するとともに、基礎から系統的に積み上げる学習法に加えて、実験や実習等の体験型の学修を併用しながら、本学にあった知識・技能の習得や定着、その活用のために工夫・改善していくことが重要である。

令和2年度 学修成果に係る自己評価 アンケート集計結果

【凡例】

4:大いに身に付いた 3:まあまあ身に付いた 2:あまり身に付かなかった 1:全く身に付かなかった

I 専門科目		こども学	栄養	全体
1.	将来、役立つ知識・技能	3.9	3.1	3.4
2.	情報収集し、現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	3.5	2.9	3.1
3.	本当にその前提が正しいのかを検証し、あるいは内省したうえで本質を見極める力	3.4	3.0	3.1
4.	知識や情報を組み合わせて解決する方法を生み出し、実行に移す力	3.5	3.1	3.2
5.	失敗を恐れずに、果敢さを持って前に踏み出す力	3.4	2.9	3.1
6.	学んだ知識や技能を生かし、小さな成果を粘り強く取り組み完遂する力	3.6	3.1	3.3
7.	自己の意思・判断によって、自ら責任をもって物事に進んで取り組む力	3.5	3.2	3.3
8.	社会全体の利益を実現するルールや人との約束を理解し、守ることができる力	3.6	3.1	3.2
9.	相手の言動を正確に把握し、自分の考えをまとめ、わかりやすく相手に伝える力	3.3	2.8	3.0
10.	良い人間関係を構築し、その中で自分を生かし、社会に貢献していく力	3.4	3.1	3.2
11.	ほとんどの科目で事前学修を行った。	2.5	2.2	2.3
12.	ほとんどの科目で事後学修を行った。	2.6	2.4	2.5

II 専門以外の科目

1.	将来、役立つ知識・技能	3.6	3.2	3.3
2.	情報収集し、現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	3.4	2.9	3.1
3.	本当にその前提が正しいのかを検証し、あるいは内省したうえで本質を見極める力	3.1	2.9	3.0
4.	知識や情報を組み合わせて解決する方法を生み出し、実行に移す力	3.4	3.0	3.1
5.	失敗を恐れずに、果敢さを持って前に踏み出す力	3.7	2.9	3.2
6.	学んだ知識や技能を生かし、小さな成果を粘り強く取り組み完遂する力	3.6	2.9	3.2
7.	自己の意思・判断によって、自ら責任をもって物事に進んで取り組む力	3.7	3.1	3.3
8.	社会全体の利益を実現するルールや人との約束を理解し、守ることができる力	3.6	3.2	3.3
9.	相手の言動を正確に把握し、自分の考えをまとめ、わかりやすく相手に伝える力	3.1	2.9	3.0
10.	良い人間関係を構築し、その中で自分を生かし、社会に貢献していく力	3.6	3.1	3.3